



令和6年度入学式を挙行了しました

4月2日(火)白子キャンパス講堂において令和6年度入学式を挙行し、学部649名、大学院29名が新たな一歩を踏み出しました。来賓の方々にもご臨席を賜り、入学生全員が一堂に会しました。

豊田長康学長は、「ご入学おめでとうございます。医療・福祉スペシャリストになるには高度な知識・技能を修得することだけではなく、幅広い教養を身につけるとともに、病者を思いやる温かい心や、高い倫理観を養う必要があります。そして、最近の医療・福祉の現場では、様々な専門職から構成される



多職種連携チーム医療に貢献することが重要視されています。本学では、皆さんがそのようなチーム医療にスムーズに貢献できるように、医療人底力教育や多職種連携教育など各種の実践的教育プログラムを準備しています。ぜひとも、友達や教職員・地域や国際的な交流を深めて充実したキャンパスライフを楽しみ、『知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリスト』に成長していただくことを期待しています」と式辞を述べました。

また、高木純一理事長は祝辞で「医療福祉産業の就業者数は右肩上がり、製造業を抜いて日本最大の産業になるとも言われています。皆さんには『初心忘るべからず』という言葉を送ります。この言葉には2つの意味があります。一つは、入学した今抱いている気持ちを大切にしたい、ということです。もう一つは、語源となっている室町時代の能楽師である世阿弥は著書『花鏡』の中で、初心というのは不慣れ・未熟さを意味し、自分が不慣れ・未熟ということをお忘れずに一生懸命に勉強なさい、と述べています。教職員全員が全力で皆さんをサポートしていきます。そして、大いに青春を謳歌し、生涯の友を作って見聞を広げてください。どうか2つの意味の初心をお忘れずに、発展する医療福祉業界で活躍し、光り輝くスペシャリストとなっていきたいと思っております」と激励の言葉を贈りました。

入学生代表として薬学科の玉置心音さんが、「鈴鹿医療科学大学の学生としての誇りを持ち、今まで支えてくれた家族をはじめとする多くの人たちへの感謝を忘れず、自らの夢や目標に向かって日々努力し、豊かな大学生活を送ることを誓います」と宣誓をしました。

＜庶務課＞

＜建学の精神＞

科学技術の進歩を真に
人類の福祉と健康の向上に役立たせる

＜教育の理念＞

知性と人間性を兼ね備えた
医療・福祉スペシャリストの育成

＜教育目標＞

- ① 高度な知識と技能を修得する
- ② 幅広い教養を身につける
- ③ 思いやりの心を育む
- ④ 高い倫理観を持つ
- ⑤ チーム医療に貢献する

海外研修のご報告

鍼灸サイエンス学科 台湾研修

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 准教授 鈴木 聡・准教授 高木 健

3月10日(日)～14日(木)の5日間、鍼灸サイエンス学科2年生10名、3年生5名、鍼灸治療センター卒業後研修生1名の計16名が台湾研修に参加しました。教員2名(鈴木と高木)と添乗員2名で引率しました。

鍼灸サイエンス学科はこれまでも2年に1回のペースで、天津、北京、上海、台湾で研修を行ってきましたが、今回は、提携校である中国医薬大学(台湾・台中市)で行いました。中国医薬大学は平成29年にも研修を行っており、今回が2回目の研修訪問です。

1958年創立の中国医薬大学は、イギリス大学評価機関クアクアレリ・シモンズ発表の2023世界大学ランキングで251-300位に入る優れた医療系総合私立大学です。研修先の中医学部(漢方医学部)は最難関の1つで、合格するには台湾の受験生の成績上位2%に入る必要があります。

大学では東洋医学の診察法である舌診と脈診、眼疾患に対する特殊鍼治療の講義と実技指導を受けました。また、十全大補湯に関する生薬について学び、実際に煎じたものに素麺を加えて薬膳として食しました。さらに、附属博物館で伝統医学に関する展示物を見ながら古代から現代までの歴史や変遷を学びました。

附属病院と関連クリニックでは様々な疾患に対する鍼灸や漢方診療を見学し、鍼灸治療の適応の広さを目の当たりにしました。また、希望者は実際に診療にあたる医師から現地で行われている鍼治療体験を受けました。

研修の最後に中国医薬大学から参加者一人ひとりに研修修了書が授与されました。



大学教学楼前にて



大学病院鍼灸外来前にて

参加者のアンケート結果から、「日本とは異なる新たな知識・鍼技術・治療法が学べた」「台湾の学生と楽しく交流できた」「初めての海外でも教員や添乗員のおかげで安全で快適に過ごせた」「台湾文化にたくさん触れさらに好きになった」「たくさんの刺激を受け今後の学習意欲向上につながった」などの意見が見られ、総じて有意義かつ満足した研修を行うことができました。

看護学部・国際交流委員会主催 ハワイ看護研修

看護学部 看護学科 教授・看護学部国際交流委員会 田中 和奈

3月9日(土)～14日(木)の日程で、看護学部国際交流委員会主催のハワイ看護研修を開催し、1年生から4年生までの看護学科の学生14名が参加しました。研修期間中は、オアフ島の医療施設や福祉施設等5施設を見学し、現地で活躍する日本人ナース・プラクティショナーの講義を受講しました。

ハワイ大学医学部のシムティキ・シミュレーションセンターでは、シミュレーターを使用したフィジカルアセスメントやディスカッションを行うグループワーク演習に参加しました。グループワークでは、上級生が下級生をフォローしながら演習に取り組む姿が見られました。

日本人看護師の方からは、アメリカの医療制度やナース・プラクティショナーの役割、多文化看護についての講義を受けました。多くの移民が生活するハワイ州では、人種によって健康に対する意識や健康問題に違いがあるため、看護師はそういった特徴を踏まえて対応することが重要だということを知りました。



海外渡航は今回が初めてという学生が大半でしたが、英語で質問を考え、積極的に質問をしていました。6日間という短い期間ではありましたが、異文化での生活体験やハワイで活躍されている日本人看護師の方から話を聞き、医療施設を見学できたことは、グローバルな視点から医療や看護を考える良い機会になったのではないかと思います。

COVID-19の影響で海外研修が中止となっていました、ようやく再開することができました。看護学部の国際交流委員会では、学生の皆さんに関心を抱いてもらえるような国際交流活動を今後も企画していきたいと考えています。



リハビリテーション学科の教員が学術大会にて最優秀演題賞を受賞

副学長（大学院・研究担当） 鈴木 宏治

リハビリテーション学科の藤井啓介准教授の研究成果が、3月9日(土)～10日(日)に開催された第9回日本臨床作業療法学会学術大会において、最優秀演題賞を受賞しました。

演題内容は、藤井准教授が文科省科学研究費の助成を受けて実施した研究の一部で、地域在住高齢者を対象として、日常の生活行為が適切に出来ない体験（＝作業機能障害）を有することが、社会的孤立に与える影響について2年間の縦断的研究を行った成果です。人は様々な生活行為を通して、社会的コミュニティと密接に関わっていますが、作業機能障害を有した場合、人は徐々に社会的コミュニティから離れていき、社会的孤立状態に陥る可能性があることを示しました。この結果は、社会的課題である高齢者の社会的孤立に対して、作業療法士が作業機能障害を軽減する支援を通して貢献できることを示唆しており、その成果が高く評価されました。

藤井准教授には、この受賞を励みに、地域で暮らしている高齢者の健康増進に寄与できる研究をさらに発展していただきたいと思います。



「事例で学ぶ多職種連携」を実施

医用工学部 臨床工学科 助教 川合 真子

3月19日(火)、21日(木)、25日(月)の3日間の集中講義で「事例で学ぶ多職種連携」を実施しました。2023年度受講者は前年度より大幅に増え、全学科から計112名もの学生が履修しました。なお、この講義の履修者には、「SUMS多職種連携教育Basicコース修了証」が授与されます。

本講義はワークショップ形式で、模擬患者の抱える問題を抽出したのちにケアプランを多職種からなる学科混合チームで立案します。年度末3月に3年生を対象として開講されるため、受講者は4年次の病院実習や就職活動の直前に、多職種連携の意義に加えて難しさと面白さの両面を体験することができます。学生からの振り返りは、「多職種連携により、自分の持つ情報をより深く分析できた」「幅広い視点を持つことにも繋がった」「自職種が他職種からどのように頼りにされているかを実感できた」などで、多職種連携の重要性だけでなく、自職種の役割を再確認することができたようです。

本学における多職種連携教育は、さらに4年次の「実践で学ぶ多職種連携」へと続き、全て履修したあかつきには「SUMS多職種連携教育Advancedコース修了証」が授与されます。4年間にわたる多職種連携教育のコンプリートは自信と誇りに繋がります。興味のある方は、先ず「事例で学ぶ多職種連携」をぜひ履修してみてください。今年度は2025年3月の春休み（3月24日、26日、27日）に開講予定です。皆さんの受講をお待ちしています。

最後に、ご協力賜りました担当教職員の皆さまに心よりの感謝を申し上げます。 模擬患者とのカンファレンスの様子



強化指定クラブ 令和6年度新チームが始動！

昨年度より本学で初めての強化指定クラブとして発足し、今年度は第2期目となる「女子バスケットボール部」の令和6年度新チームが始動しました。

今年度は新入生11名が加わり、昨年から継続の2名と合わせて13名の部員構成となりました。

現在、4月上旬開催の東海学生バスケットボール大会（トーナメント戦）への参加を予定しているため、3月20日(水)より事前練習を開始しました。

今年度の目標は、東海学生バスケットボールリーグ・2部リーグへの昇格です！

本学は医療・福祉系の総合大学であるため、各学科・専攻で目指す資格の取得や、学内外での実習・日々の学習等が求められますが、部活と勉強の両立に取り組み、中でも練習では一人一人が意識を高く持ち、切磋琢磨し合いながら技術力・チーム力の向上に励んでいきたいと考えています。



強化指定クラブ「女子バスケットボール部」の新チームはまだ始まったばかりですが、上部リーグへの昇格と本学在学生の皆さんに愛されるチームを目指して頑張りますので、どうか多くの方の応援をよろしくお願いいたします。

なお、マネージャーや東海学生バスケットボール連盟で大学バスケに携わる学連員の募集も行っていますので、興味のある方は学生課までご連絡ください。

＜強化指定クラブ『女子バスケットボール部』・学生課＞

市民公開講座のご報告

医療福祉学専攻・臨床心理学専攻「発達障害への素朴な疑問に答えます」

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻長 大橋 明

2月11日(日)医療福祉学科 医療福祉学専攻・臨床心理学専攻主催の市民公開講座を開催しました(附属こころのクリニック・附属こころの相談センター共催)。今回は、「総合心療センターひなが」に勤務する児童精神科医の山田智子先生に「発達障害への素朴な疑問に答えます」というテーマでご講演をいただきました。



発達障害は、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症などを含む広範な概念ですが、それぞれに特徴があります。今回の講座では、各障害の特徴や診断のポイント、診断を受けるメリットやデメリット、服薬の効果や副作用、周囲はどのようなサポートや対応をすればよいのかなどを、分かりやすく例を挙げてお話いただきました。

講演後は市民の皆さまから質問が幾つも挙がり、終了後も多くの方が山田先生に話を聞きに行かれており、発達障害が社会的にも関心の高いテーマであることがうかがわれました。発達障害についてのご相談は、本学の附属こころのクリニックや附属こころの相談センターでも多く寄せられています。相談に携わる私たちも、市民の皆さまへより一層の貢献ができるよう日々努めていきたいと改めて感じました。

理学療法学専攻「みんなの筋力トレーニング」

保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 笹井 宣昌



2月23日(金・祝)リハビリテーション学科 理学療法学専攻主催による市民公開講座を開催しました。雨天により冷え込む中でしたが、約50名の市民の皆さまにご参加いただきました。「みんなの筋力トレーニングー効果を得るための基本ー」と題し、「筋力トレで狙った効果を得るためのヒント」について解説しました。これからトレーニングを始める方や実践中の方、あるいはアンチエイジングからアスリートまで幅広く参考にいただける実践的かつコアな内容でした。「筋トレ」と一言でいっても、目的に応じて

やるべきことが異なること、あるいは筋肉量のみならず強い(断裂しにくい)筋線維を目指すことも重要であること、さらに症状・疾患等ある場合は、医療機関の受診や理学療法士による指導のもと取り組むことが大変重要であることも解説しました。終了後には、たくさんの質問をお寄せいただきありがとうございました。

作業療法学専攻「フレイル予防に向けた健康づくり」

保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 藤井 啓介



3月16日(土)リハビリテーション学科 作業療法学専攻主催による市民公開講座を開催し、約70名の市民の皆さまにご参加いただきました。「フレイル予防に向けた健康づくり～フレイルに関する知識と日常の身体活動について～」というテーマで講演しました。近年、何かと話題に挙がる“フレイル”について、初めて聞いたという方や聞いたことはあるが意味は知らないという方へ向けて、フレイルの基本的な部分を分かりやすく説明しました。また、フレイル予防には運動が効果的であることだけでなく、運動に取り組む時間

のない方や運動が苦手といった方への工夫として、日常生活の身体活動もフレイル予防において大変重要であることをお伝えしました。今回の講座が皆さまの健康増進に繋がることを願っております。

鈴鹿市消防団機能別学生団員 (Volunteer Fire Coops) についてのご紹介

保健衛生学部 救急救命学科 教授 神藏 貴久

救急救命学科の神藏と申します。2023年4月から本学に着任いたしました。消防職員→在職中になんとなく大学院→消防職員を退職し、大学教員となりました。さて本論です。皆さんの記憶にも新しいように、日本各地で災害が頻発しています。その中で、消防団は地域の防災力の中核として重要な役割を果たしているところです。他方、消防団員の高齢化および若年層の入団者の減少により、地域における防災活動の担い手を十分に確保することが今後の課題となっています。鈴鹿市消防団では、2024年4月から機能別学生団員を組織し、学生の積極性、発想力、行動力などに期待して、消防団の活性化を図るとともに、地域防災の担い手を確保しようとしています。救急救命学科の3年生と2年生の計25名が学生団員に任命されました。機能別学生団員の主な活動内容は平常時には①応急手当の普及活動、②イベント等での防火・防災啓発活動の支援、災害時には応急救護所での活動支援(テントの設営や管理、非常食の配布など)を行います。個人貸与品として、①多機能ベスト、②ヘルメット、③アポロキャップ、④革手袋、⑤リュックが貸与されます。ボランティア活動との共通認識ではありますが、報酬も支給されます。関心のある方は直接、もしくは大学事務局を通じて救急救命学科の神藏までご連絡ください。

令和6年能登半島地震 支援活動報告

日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT） 栄養・食支援活動

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 大槻 誠

まずは、今回の震災により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

能登半島地震の発生を受けて、公益社団法人日本栄養士会に災害対策本部が設置され、日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）リーダーの資格を持つ医療栄養学科の大槻（三重県栄養士会：第1陣1/5～1/8、第4陣2/12～2/15）と若杉助教（第2陣1/19～1/22）に対し、被災地における栄養・食に関する支援のための出勤要請がかかりました。



第1陣では、普段は千代崎キャンパスに設置されている日本栄養士会災害支援医療緊急車両「JDA-DAT河村号」を石川県まで搬送し、同県七尾市において活動拠点づくりと特殊栄養食品ステーションの設置、そして悪路の中、食糧不足に陥っていた輪島市まで要配慮者向け食品をプッシュ型で搬送しました。第2陣では七尾市を拠点として珠洲市、能登町へ支援物資の搬送ならびに病院・避難所における情報収集（必要物資など）を行いました。

第4陣では、支援のフェーズが変わり輪島市の行政栄養士の指示のもと、避難所巡回をしてきました。避難所によっては、朝食の提供を個人に任せたりするところもあり、少しでもバランスよく食べてもらうために、支援物資を赤（体をつくる）、黄（体を動かすエネルギー）、緑（体の調子を整える）に分け、そこから一つずつ選んで食べてくださいとの掲示や、カップ麺のスープを残すこと、食料を保管せず速やかに食べましょう等といった避難所における食の環境整備を行いました。

現在、避難生活の長期化に伴い、避難されている方々の栄養と食生活に様々な課題が出ています。我々JDA-DATは今後も被災者へ寄り添った継続的な栄養・食支援活動を進めてまいります。

日本臨床衛生検査技師会（JAMT） DVT 検診と支援活動

保健衛生学部 臨床検査学科 准教授 福岡 恵子

1月に発生した能登半島地震では、甚大な被害が発生しました。日本臨床衛生検査技師会（JAMT）は、石川県庁からの依頼で能登半島を中心としたDVT（深部静脈血栓症）検診活動や被災した病院への人的派遣などを継続的に行っており、三重県JAMTチームとして米田操臨床検査学科長と共に参加しましたので報告いたします。

チームは2班編成で2月3日（土）～4日（日）に活動、筆者を含む10名が4日を担当しました。3日夕方に金沢に到着、4日は早朝5時40分に集合、物品や機材を積んだ2台の車にて出発。震源に近づくにつれ家屋の被害がひどく、インフラの復旧を急ぐ必要性をひしひしと感じました。高速道路は大きくうねり亀裂や崩落などがあり、3時間以上（通常の2倍）かけて公立穴水総合病院に到着。ここで超音波装置を積み込み当日のスケジュールや注意点などを打ち合わせ後、避難所へ巡回訪問。避難所にいる被災者は自宅の片付けなどで日中は高齢者がほとんどでした。DVT検診の超音波検査を担当しましたが、様々な想いや心配ごとなどを話す方も多くおられました。私自身も神戸で被災した経験があり神戸大学病院（震災当時は対策基幹病院）勤務中に多くの支援を受けました。今回の参加で、活動の尊さや支援活動の組織化が進んでいることに感銘を受ける共に、1日でも早い能登半島の復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。



動けない方はダンボールのベッドサイドに向いて検査を行った

三重県災害派遣福祉チーム（三重県DWAT） 初の実災害活動

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 齋藤 恒一

能登半島地震後の石川県羽咋郡志賀町において、三重県災害派遣福祉チーム（以下、三重DWAT）が初めの実災害対応として、避難所での活動を展開しました。そのうち3月1日（金）からの4日間、私は、三重DWATの第1陣として被災地の避難所で活動を展開しましたので、以下報告いたします。

初日から、三重DWATは避難所での生活支援、特に福祉ニーズが高い被災者のための対応に注力しました。我々は、高齢者、障害を持つ方々、小さな子どもを持つ家族など、細やかな配慮を要する被災者のサポートを心がけました。

避難所での生活が長期化する中、外部支援が縮小する時期には、被災者の自立を支援する取り組みが重要になりました。私たちは、生活必需品の提供、健康管理のアドバイス、復興に関する情報の提供を行い、被災者が自らの足で立ち上げられるような援助を心がけました。

三重DWATの志賀町での活動は、被災者だけでなく、私たち自身にとっても学びの多い経験となりました。三重DWATとして、初めの実災害対応は、多くの挑戦と困難を伴いましたが、共に乗り越える中で、チーム内での信頼と協力の精神が育まれました。この経験を糧に、三重DWATは、今後の災害対応に向けてさらに強固な体制を構築し、地域社会の安全と福祉を守るために尽力していきます。



医療健康データサイエンス学科 YouTube 動画撮影

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 助教 森田 賢太

YouTubeに本学の公式チャンネルがあるのをご存じでしょうか？2月20日(火)に医療健康データサイエンス学科の紹介動画が公開されました。

本学の公式チャンネルでは、「高校生向け」学部・学科紹介動画が毎月1学科・専攻ずつ配信されています。高校生に代って地元MCの越智綺音さん(おっちー)が、学科を訪問しレポートしています。

本動画では、「医療健康データサイエンスとはなにか？」授業や学生の様子を見ることができます。冒頭では、「データサイエンスとはなにか？」を私からおっちーへカンペを見ながら説明しています。

中盤では、本学科の3年生対象の授業「IoTと生体信号処理演習Ⅰ・Ⅱ」の一部であるラズベリーパイの演習を紹介しています。学生が自分で電子回路を考えて作成し、プログラミングをしてラズベリーパイと赤外センサーを操作する様子が映っています。こちらは台本無しで、学生がおっちーに自分が作成した物について説明しています。

後半では、おっちーが本学科の3年生に授業の様子や大学生活について質問をしています。この部分を見てもらうことで、本学科の学生が自由にのびのびと大学生活を過ごしているのがわかんと思います。



右のQRコードから本学科の動画にアクセスできますので、是非ご覧ください。

ブンナビ薬学特別講座2023 進路啓発セミナー&交流会

薬学部 薬学科長 西田 圭吾

2月14日(水)に、文化放送キャリアパートナーズと薬学部就職委員会の共催による、薬学生のための進路啓発セミナーを開催しました。本セミナーはブンナビ薬学特別講座として2014年から継続して実施しており、コロナ禍でのオンラインがあったものの4年ぶりとなるオンサイトでの開催となりました。実務実習が終了し、就職活動を控えた薬学科5年生と薬学共用試験を終えた4年生が参加しました。

第一部「バンブー竹内の聴くクスリ」では、パーソナリティの竹内靖夫氏、ゲストに映画監督の田中光敏氏をお迎えしました。医療現場とは異なるものの田中監督の映画づくりに込められた「人を思いやる、人により添う恕*のこころ」についてお話をお伺いすることができました。田中監督からは、弱者に寄り添い、想い遣る心の大切さを改めて伝えていただきました。

第二部「先輩薬剤師によるパネルディスカッション」では、本学卒業生を含めた6名の現役薬剤師をお迎えしました。国家試験対策や就職活動に関するアドバイスから、超高齢化社会を迎える日本で今後求められる薬剤師像まで、幅広い話題についてディスカッションしました。

第三部「先輩薬剤師との交流」では、学生が気になっている話題や疑問などを、先輩薬剤師に気軽に質問できる時間を設けました。参加した学生にとっては、今後の学生生活の過ごし方、やりたい事、進路を考える良いきっかけになったのではないかと思います。



先輩薬剤師との交流の様子

*恕(じょ)：人の身の上や心情について察し、同情すること。また、その気持ち。

令和5年度 動物感謝式

動物実験施設運営委員会 委員長 三浦 俊宏

令和5年度の実験動物感謝式を、3月6日(水)千代崎キャンパス動物実験施設横の動物慰霊碑前にて行いました。

令和5年度に犠牲となった実験動物数は、マウス1,085匹、ラット356匹、モルモット2匹、鶏胚90羽の合計1,533匹(羽)でした。これは昨年よりマウス113匹の減少、ラットは98匹の増加となりました。また、年間承認件数(令和5年3月~令和6年2月)は、新規7件、継続8件、計画変更2件となっています。



本学では動物愛護の精神に基づき、動物に無用の苦痛を与えないように細心の配慮を行っています。動物実験に関する講習会を必修とし、また実験計画が本学で定めた動物実験指針に適合しているかを厳正に審査しています(動物実験指針および動物実験倫理委員会規程は本学ホームページで公開しています)。

第15回中部放射線医療技術学術大会にてゼミ生が口頭発表

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 山下 剛範

11月25日(土)～26日(日)の2日間、福井県にて開催された第15回中部放射線医療技術学術大会(CCRT)で山下ゼミの4名(令和5年度卒業生)が口頭発表を行いました。CCRTは中部地区の診療放射線技師が集まる学術集会であり、学生が演題発表することはあまり多くありません。今年度のゼミ生は皆で演題を出そうと早期より準備を行いました。

学術集会の当日は非常に緊張したゼミ生もおり、声が震える場面もありました。しかし質疑にも立派に対応しており、今後の学会活動に非常に役立つ経験ができたと確信しています。卒業後の活躍を期待しています。

以下、発表者と演題名を紹介します。

桶田 真名(演題名: タウリンはTHA術後のStress Shieldingを抑制するか)

佐橋 茉宥(演題名: 卵巣摘出モデルマウスのタウリン投与による骨密度低下抑制メカニズムの解明)

田場 裕介(演題名: 2型糖尿病モデルマウスに対する運動療法とポリフェノール摂取が骨代謝におよぼす影響)

和宇慶朝陽(演題名: 放射線曝露後のタウリン投与による放射線損傷緩和機構)



2年生の臨床実習Ⅰ(見学実習)を無事に修了して

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 濱田 匠

リハビリテーション学科 作業療法学専攻2年生は、令和6年2月から3月にかけて、1週間を計2回、三重県内を中心とした病院や施設で臨床実習Ⅰ(見学実習)を行いました。以前ほどではありませんが、新型コロナウイルスの影響があるにもかかわらず、学外実習が無事に実施できたこと、実習地施設のご協力や臨床実習指導者の方々をはじめ皆さまに深く感謝いたします。

臨床実習Ⅰ(見学実習)は、作業療法の理念である「こころとからだのリハビリテーション」の理解を深めるために、身体障害領域や精神障害領域、発達障害(子ども)領域、老年期(高齢者)領域で実施されました。初めての学外実習であるため、実習内容は見学が中心ではありますが、学生が主体的に対象者の方々とコミュニケーションする機会が設けられました。また、作業療法士の専門性や役割はもちろんではありますが、チーム医療の要である多職種連携の実際や意義について、多くのことを学ぶことができました。

実習報告会では、学生一人一人が、実習で「感じたこと」「学んだこと」「今後の課題」について、経験したことをもとに自分自身の言葉で力強く発表している姿が印象的であり、一回りも二回りも成長していることを実感しました。今回の臨床実習Ⅰ(見学実習)の貴重な経験が、今後の勉学や、3年生や4年生で実施される長期間の評価実習や総合実習に活かされていくことを願っています。

初めての学外実習を終えて

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻3年 濱中 蒼依



2月26日(月)～3月7日(木)までの間、「三重県児童相談センター」に社会福祉士養成のための学外実習に行きました。実習内容は主に一時保護所にいる児童の見守りと、療育手帳判定における保護者との面接に同席しました。

一時保護所では児童の学習をサポートしたり、一緒に運動・散歩をしました。一時保護所は親からの虐待など様々な事情を抱えた児童が保護されて生活を送っており、自己肯定感が低い児童が多くいるため、それぞれの児童のできるところ・いいところを褒めて自分に自信を持ってもらえるように関わりました。また、それぞれの児童が何に困っているのかも考えながら関わるようにしました。

被虐待の児童と関わっていくなかで、ある児童が「私が原因でここに来ているわけではないのに学校に行けない、友達に会えない」との発言から、一時保護所にいる児童は学校に行けない、家に帰れない、友達に会えないという点に最も困っていると気づき、一時保護所は虐待から守られる反面、社会から隔離されてしまうという課題があると知りました。しかし、職員の説明から、「より家庭的な雰囲気づくりをして、児童が一時保護所での生活が苦にならないように心掛けています」と説明され、部分的にゲーム機の使用、あるいは生活日課での様々な工夫がなされているなどの事柄が印象的でした。今夏の24日間の第二期の学外実習への良いステップとなりました。

地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る 取組支援事業「尾鷲紀北アドバンスト実習」を実施

薬学部長 大井 一弥

令和5年度文部科学省（大学改革推進事業）「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」に採択された「東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築」の一環として、1月22日(月)～26日(金)までの5日間の日程で、尾鷲紀北アドバンスト実習を実施しました。



- 1日目：尾鷲市 イシブチ薬局古戸センター（輪内地区への配達業務に同行）
- 2日目：紀北町 第一病院（須賀利地区の患者送迎に同行）⇒紀北町役場海山総合支所
- 3日目：尾鷲総合病院⇒アルフレッサ伊勢支店尾鷲出張所⇒三重県立尾鷲高等学校（高校生との交流会）
- 4日目：熊野古道（薬草の観察）⇒尾鷲市福祉保健センター（「こもればカフェ」に参加）
- 5日目：実習のまとめとなる映像資料の作成

本実習は、高齢化や人口減少などの課題を背景に、地域の医療ニーズ（へき地医療、在宅医療等）に対応する質の高い薬剤師の養成を目的とするもので、三重県内では初めての実施となります。

本実習には、本学・名古屋市立大学・岐阜薬科大学・静岡県立大学の薬学部5年生5名が参加しました。学生たちは、机上の学習では知りえない地域の実情を自ら体験でき、新たな問題意識と地域医療への関心が育まれました。今回の貴重な経験をこれからの学びに活かしてくれることに期待しています。

国家試験頑張っ！食事会

1月26日(金)学生寮生を対象に「国家試験頑張っ！食事会」を開催しました。この会は国家試験を目前に控えた4・6年生を激励する会として毎年開催しています。

今年度は新型コロナウイルスの5類移行に伴い、4年ぶりに立食形式で実施しました。高木久代副学長や寮母さんから応援のお言葉をいただいたほか、国家試験を受験する4・6年生からは「全力で頑張ります」といった抱負が聞かれ、下級生からは「体調に気を付けて頑張ってください」「今までの頑張りを全力で出してください」といったエールが送られました。プレッシャーの日々を過ごす4・6年生の皆さんの励みになれば幸いです。今後も引き続き、寮生同士の交流を深めていきたいと思ひます。 <学生課>



第37回臨床工学技士国家試験の受験にあたって

医用工学部 臨床工学科 准教授 山田 康晴

3月3日(日)第37回臨床工学技士国家試験が大和大学（大阪府）で実施されました。試験当日は天気恵まれ、学生は多少緊張していましたが、自信にあふれた良い表情をして試験会場へ。

医用工学部 臨床工学科 令和5年度卒業生 岸本 力也

入学当初、本学での勉強は、医療について一から学ぶということもあり、高校までの勉強とは違う難しさを感じていました。また、2年生、3年生と学年が上がるにつれて専門科目や実習科目が増え、講義の予習復習、実習レポートの作成に追われるような毎日でした。目の前の課題をこなすことで精一杯でしたが、一つ一つ着実に知識や技術が身につけていることを感じながら学生生活を送ることができました。



4年生には、臨床実習、卒業研究、就職活動、国家試験と非常に重要なイベントがあり、これらのイベントを同時にこなしていかなければなりません。私は特に、国家試験の勉強に力を入れました。模擬試験の成績が合格圏内に入るまで時間はかかりましたが、決して諦めることなく、分からない問題は積極的に先生に質問し、できない問題を一つずつ減らしていくことを心がけていました。その結果、無事に国家試験の受験資格が得られ、卒業することができました。就職も、希望していた三重県内の病院から内定をいただきました。今後は臨床で必要な知識と技術を十分に身につけ、患者さまや他の医療従事者から信頼される臨床工学技士を目指していきたいと考えています。

新任教職員のご紹介



保健衛生学部 放射線技術科学科 教授 野田 孝浩

本年4月より放射線技術科学科に着任いたしました。3月まで岐阜県の大垣市民病院で診療放射線技師として37年間勤務し、専従医療安全管理者の実務や、認定インフェクションコントロールドクターとして職種横断的な役割も担当して参りました。これらの経験をもとに、学生の皆さんがチーム医療に必要なスキルを身につけられるようサポートし、本学の発展に貢献したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 鈴木 恵子

本年4月より保健衛生学部放射線技術科学科に着任いたしました。着任前は民間病院、大学病院で診療放射線技師として業務に携わり、特にインターベンションや放射線被ばくの領域を専門にしておりました。教員として1年目ですので新しい経験の連続に戸惑うこともあると思いますが、今まで培ってきた経験や知識を、学生の教育・診療放射線技師の養成に役立て、本学の発展に努めていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 渡部 由佳

本年1月より保健衛生学部医療栄養学科助手として着任いたしました。管理栄養士としてこれまで行政、福祉（児童）、教育研究分野で働いてきました。「論理的な思考力、判断力、問題解決能力を備えた管理栄養士」に少しでも近づけるよう助手業務を通じて成長できればと思っています。未熟で至らない点多々あるかと思いますがご指導の程よろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療福祉学科 助手 西村 誠

精神科診療所の心理士として数年、地方自治体の社会福祉職として十数年、関東で勤めてまいりました。昨年、妻の故郷である伊勢市へと移住し、この1年は主夫の傍ら、細々とオンライン相談業をしておりました。この度、ご縁をいただきまして医療福祉学科の助手として勤務いたします。学生の皆さんの実習が円滑に進むように努めたいと考えます。また、皆さんから東海の魅力を教えていただきたいです。よろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助手 光野 諒亮

本年4月より保健衛生学部鍼灸サイエンス学科の助手として着任いたしました。本学の鍼灸サイエンス学科を卒業し、本学附属の鍼灸治療センターにて勤務しておりました。鍼灸師としてだけでなく、学生がこの大学に進学して良かったと思えるようサポートさせていただきます。至らぬところも多いと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 救急救命学科 准教授 大和田 均

昨年9月より保健衛生学部救急救命学科に着任いたしました。着任前は消防吏員として33年、その後、新潟医療福祉大学で教員を4年務めて参りました。私は救命率の向上を目指して、あらゆる観点から安全で迅速な救急救命処置を施すための方策についての研究を行っています。学生には本研究を通して、立派な救急救命士として社会で活躍できるよう、精一杯教育していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 救急救命学科 講師 富田 泰成

本年4月より保健衛生学部救急救命学科に着任いたしました。これまで消防機関において28年間勤務をし、うち3年間は3次救命救急センターへの派遣を経験して参りました。これらの経験を活かし微力ながら本学の発展と社会貢献を目指して学生と共に学んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



医用工学部 臨床工学科 教授 堀 浩樹

2024年4月1日付で医用工学部臨床工学科特任教授に着任しました。前任は三重大学大学院医学系研究科・医学部教授で、小児科学、血液腫瘍学、国際保健医療学、医学教育学の領域での診療と教育研究活動に従事してきました。これまでの経験を活かして本学での医療人養成に貢献したいと考えています。ご指導、ご支援の程をよろしくお願い申し上げます。



薬学部 薬学科 助手 中川 直也

2024年4月より薬学科の助手に着任いたしました。着任前は、本学薬学研究科の大学院生として、ヒトの身体に必要な栄養素のひとつである亜鉛の生体における役割と、そのメカニズムについて研究を行っておりました。薬学科、大学院両方とも本学出身でありますので、学生側の視点に立った学生サポートを心掛けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護学部 看護学科 教授 伊藤 薫

2024年4月より看護学部看護学科地域・在宅看護学教授に着任いたしました。着任前は、四日市市南地域包括支援センターのセンター長として、地域包括ケアに係る人材への支援やネットワークづくり、認知症地域支援事業や介護予防事業などに携わってきました。看護師・保健師の養成に尽力して参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



看護学部 看護学科 教授 村田 真理子

本年4月より看護学部看護学科に着任いたしました。3月まで三重大学大学院医学系研究科の基礎医学系講座・環境分子医学分野で教育・研究を行ってきました。衛生学・公衆衛生学を専門としていますが、これからは医学全般にわたる教育を提供できるように努めてまいります。医学・医療の未来を担う学生の皆さまの力になれるよう、頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



看護学部 看護学科 准教授 服部 由佳

2023年9月より看護学部看護学科に着任いたしました。専門領域は老年看護学です。これまで、看護教育と地域高齢者の介護予防や防災力を高めるための研究活動・地域活動を行ってまいりました。これらの教育・研究活動の経験を活かし、超高齢社会のニーズに対応できる看護師を目指した看護学生への教育、地域の皆様への貢献に尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護学部 看護学科 准教授 丸山 幸恵

2024年4月に看護学部看護学科在宅看護学領域に着任いたしました。東北、関東圏域にて看護教育に携わってまいりました。地域の生活環境が変われば、看護も変わります。多様な生活を支える看護の奥深さをこれまでの経験を通して学生の皆さまにお伝えするとともに、その人らしさを支える看護について、一緒に考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護学部 看護学科 助教 澤田 唯

本年4月より看護学部看護学科、小児看護学助教に着任いたしました。現在までは、三重大学医学部附属病院の小児科で3年間、同院NICUで10年間、病気をもつ子どもたちとご家族様への看護に携わってまいりました。これまでの臨床経験を活かし、学生の皆さんに小児看護の魅力をお伝えできるよう努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度 第3回SUMS 学科横断的共同研究費助成について

副学長（大学院・研究担当） 鈴木 宏治

医療・福祉の総合大学である本学（SUMS）における統合医療・医療福祉関連研究の発展に寄与する課題の解決を目指す目的で設置された、第3回SUMS 学科横断的共同研究費助成の研究費助成の対象者が決定しました。

応募のあった3課題の研究内容について、社会連携研究センター運営委員会委員に評価していただき、その評価結果に基づく理事長及び学長の裁定の結果、2024年度は以下の3課題が助成対象になりました。

なお、本事業は次年度も引き続き実施する予定です。よろしくお願い申し上げます。

研究代表者	研究分担者	研究課題名
西岡 淳二 教授 (臨床検査学科)	秋田 展幸 准教授 (臨床工学科) 米田 操 教授 (臨床検査学科) 鈴木 宏治 教授 (薬学科)	変形膝関節症の骨膜病変発生における線溶系制御因子SERPINA5関与の検証
大和田 均 准教授 (救急救命学科)	坂口 英児 准教授 (救急救命学科) 江口 秀子 教授 (看護学科) 山田 康晴 准教授 (臨床工学科)	従来のCPRとヘッドアップCPRの質の比較と評価 —心停止傷病者の社会復帰率の向上へ向けての基礎的研究—
平井 聡子 助教 (救急救命学科)	井上 佳代 准教授 (看護学科) 淀 直子 准教授 (医療福祉学科) 植村 雅子 助教 (薬学科)	子を持つ乳がんサバイバーの語りから横断的に探る当事者に向けたポートフォリオの構築

学友会

第30回謝恩会を行いました

学友会 会長・保健衛生学部 放射線技術科学科 4年 鈴木 陽茉理

3月8日(金)学位授与式終了後、鈴鹿サーキットさくらホールにて、第30回謝恩会を開催しました。

謝恩会では、高木理事長・豊田学長から饒のお言葉をいただいた後、卒業生の新たな門出を祝して鏡開きが行われました。さらに各学科代表の方から先生方への感謝の気持ちを込めたスピーチや花束贈呈など温かい雰囲気の中で行われました。先生方も卒業生も楽しんでおられる姿が見られ、皆さまにとって素晴らしい思い出になったと思います。

今回この謝恩会を開催するにあたり、ご参加いただきました先生方・卒業生の皆さま、そして準備・運営にご協力いただいた関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。



学生相談室通信



学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

千代崎キャンパスの最寄駅、近鉄千代崎駅の隣に伊勢若松という駅があります。その駅前には、昔の西洋風の服装をした「大黒屋光太夫」さんのブロンズ像が立っているのをご存知ですか？光太夫さんは若松出身の船乗りで、ある日、いつものように白子の浜を船出したのですが、途中で嵐に遭い船の舵が壊れてしまい、何とロシアまで漂流してしまうのです。右も左もわからない、言葉も文化も異なるロシアで、一つひとつ言葉を覚え、生きていく方法を身につけ適応していきます。それでも、「日本に帰る」という信念を持ち続け、長い年月をかけて、光太夫さんは言葉では言い尽くせないほどの辛抱と苦勞を重ねて日本に帰ってきます。なぜ、そんなに頑張り通せたのか。井上やすしの小説「おろしや国酔夢譚」や同名の映画で描かれている光太夫さんを見てみると、まずは感情コントロールがとても上手であることに気づかされます。そして、一人で頑張るのではなく仲間や現地で知り合った人たちの助けも借りることができる。また、苦しい中にも自分なりの目標を見つけて、チャレンジすることを楽しめる人だったようです。

新年度は、新しい場所、新しい友人、新しい学年、新しい授業と出会い、戸惑うことも多いと思いますが、光太夫さんのように、自分なりの小さな目標を見つけてチャレンジを楽しめるといいですね。そして、助けてほしいなあと思った時は、学生相談室のことも思い出してください。



「ライスフォークの背にのせて」

先日レストランで、年配のご婦人がフォークとナイフを使って洋食を食べているのを見かけた。ナイフを使ってライスを器用にフォークの背にのせて口に運んでいる。最近、そんな光景はほとんど見なくなった。パン食が多くなったし、そんな作法自体が無くなったからだ。おじさんが生まれ育った昭和時代には、よほど格式ばったレストランじゃない限りライスを注文することが出来たし、ライスはフォークの背にのせて口に運ぶのがマナーであり、お洒落でもあった。

西洋ではお米は主食じゃないしほとんど食べないから、ライスの食べ方なんてあるわけがないんだ。フォークの背にのせてライスを食べるなんて、そんな不安定でマニアックな食べ方をマナーにしたのはどこの何奴（ドイツ）だ～？ イタリアか？

調べてみると、明治28年（1895年）創業の洋食の草分け的存在の銀座煉瓦亭の初代店主 木田元次郎という人にたどり着いた。ポークカツレツ（今で言う、とんかつ）は、この店が元祖と言われている。西洋料理にはパンが常識だったのに、「ご飯も食べたい」と言う客の要望に応じて、ライスを皿に盛って提供したのだという。その際、フォークの背にライスをのせる作法を勝手に思いついて客に教えたという伝説が残っているらしい。な～んだ、それが日本中に広まったのか。それがマナーとして数十年も続いて

いたなんて、いや、それどころか、今でも頑なに木田マナーを守り通している人がいるなんて驚キダ。

西洋料理をご飯に合うように日本独特に進化させて洋食になり、その食べ方も日本独自に編み出された。これはおじさんの勝手な推測だが、1960年代に日本でも外国旅行が自由化され、1970年代から多くの日本人が外国へ行くようになった。多くの日本人が生の外国文化に触れ、徐々に日本独特の作法は姿を消していったんじゃないだろうか。

今は一流レストランやホテルのメインダイニングのフランス料理では、ライスが提供されることはほとんど無い。だから、ここではライスの食べ方は問題になりようがない。「洋食屋さん」と呼ばれるレストランでは、「パンにしますか？ライスにしますか？」と今もライスが提供されるが、日本独特の作法で食べる人はほとんどいなくなった。現在のマナーでは、フォークは刺すか掬うが基本で、ライスを食べる時もフォークで掬うかフォークの腹にのせて口に運ぶとなっているようだ。

グローバル・スタンダードだね。それじゃあ将来、ライスなんて無くなライスか？

えっ、洋食はライスに合うように進化したんでしょ。おじさんの的には、洋食と一緒にライスを食べないとツライっスね。それでは、またライス～！ さよなら、さよなら。

日本薬膳学会から書籍が出版されました

日本薬膳学会（高木久代 代表理事）は、東洋医学を融合した日本独自の薬膳の確立をめざし、2013年に本学の教員が中心となって設立されました。「日本風土に根差した」「日本人に適した」「日本から発信する」薬膳を科学的な視点でとらえながら研究・実践するとともに、それらを担う人材育成に尽力しています。

「いつまでも美味しく食べられる未病を癒す旅」をモットーに、学会の活動を通じて様々な分野とのコミュニケーションを活発に行い、分かりやすい薬膳とその活用法を広めることを目的としています。この度、日本薬膳学会より2冊の書籍が出版されました。皆さまの健康増進にぜひご一読ください。

■「はじめての薬膳 ～簡単で美味しくて運氣も上がる！～」

著者：日本薬膳学会 代表理事 高木久代

出版社：かざひの文庫（2023年12月2日発行）

薬膳の基礎から分かりやすく解説されていますので、初めて薬膳を学ぶ方にも最適な1冊です。著者の体験談を交え、薬膳の基本的な知識を通じて、食が私たちの日常の健康と幸福にどれほど影響を与えるかを解説しています。ご自身で薬膳料理を作っていただけるようレシピも掲載されています。



■「和の薬膳」

著者：日本薬膳学会 編・鈴鹿医療科学大学 協力

出版社：講談社（2024年1月30日発行）

中国の伝統医学（東洋医学）に立脚した薬膳に、現代医学（西洋医学）における栄養学（食事摂取量と栄養価）の概念を加味し、日本風土と日本人の体質に適した日本式薬膳レシピが春夏秋冬で解説されています。皆さまの健康寿命の延伸に役立つレシピとコラムが、写真とイラストで分かりやすく紹介されています。



行事予定

2024年5月～8月

5月6日（月） 振替休日・創立記念日
11日（土） 補講日
19日（日） 第1回オープンキャンパス
25日（土） 補講日
28日（火）～31日（金）・6月3日（月）
春期定期試験と解説
6月8日（土） 補講日
16日（日） 第2回オープンキャンパス
22日（土） 補講日
29日（土） 春期追・再試験
7月6日（土） 補講日
13日（土） 第3回オープンキャンパス

15日（月・祝）月曜授業日
16日（火） 補講日
17日（水）～20日（土）・22日（月）～26日（金）
前期定期試験
29日（月）～8月2日（金）
前期・夏期定期試験と解説
8月3日（土） 第4回オープンキャンパス
5日（月） 夏季休業（～9月4日）
9日（金）～18日（日）夏季一斉休暇
22日（木）～23日（金）・26日（月）～28日（水）
前期・夏期追・再試験
31日（土） 第5回オープンキャンパス

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。